

經典餘師

易經

七

口 11

1029

22



周易餘師卷之七

文言

元者善之長也亨者嘉之會也利者義之和也貞者事之幹也

君子仁之體也
以人長之是謂
會也嘉之會也
利者義之和也
貞者事之幹也

經由餘師

周易餘師卷之七

文言

天地乾坤の文と究りて言述るるの
元は文説といふ

元者善之長也亨者嘉之會也利者
義之和也貞者事之幹也

君子體仁
以人長之是謂會也嘉之會也利者
義之和也貞者事之幹也

足以長人嘉會足以合禮利物足以

義和事君子行此四德
周以事君子此四
小足君子此四
德之行君子故
曰乾元亨利貞

右第一章

初九曰潜龍勿用
謂也子曰何
德也子曰何
也世半易不
成不世也
而無是也
而無是也

右第一章

和義貞固足以幹事君子行此四德
者故曰乾元亨利貞
初九曰潜龍勿用何謂也子曰龍德
而隱者也
無悶不見是而無悶樂則行之憂則

樂也則何
行之憂也
拔可不
拔可不

九二曰見龍田
利在大人
利在大人
利在大人

違之確乎其不可拔潜龍也
君子身
○九二

曰見龍在田利見大人何謂也子曰
龍德而正中者也庸言之信庸行之
謹閑邪存其誠善世而不伐德博而
化易曰見龍在田利見大人君德也

九三曰君子終日乾々
 夕惕若厲无咎何謂也
 子曰君子進
 德修業忠信所以進德也
 修辞立其
 誠所以居業也知至至之可與幾也
 知終終之可與存義也是故居上位
 而不驕在下位而不憂故乾々因其
 時而惕雖危无咎矣

子こ曰い上うへ六む前まへは説とくふ業わざと修しゆめんとする

九四曰或躍
て淵に在咎无何
と謂也子曰く上
下常无非と爲
非也進退恒无
群と離るる非
也君子徳は進
業と修む時及
べんと欲と也
故に咎无

經曲餘師

周易卷之二

三

忠と尽し信実と尽し一身の徳の進みつゝ光ると生じる
所以るり文章言辭と修理してとらゝて滅びて見識
と進み一身と君子の業は置かへんり幾くも夏の出発の
幾先より此夏よりよりよりきとその至る所と早く明
察よりよりよりよりよりよりよりよりよりよりよりより
既よその終りと所と明辨よりこのゆえ心は進でつゝ
るがゆは義理よりよりよりよりよりよりよりよりよりより
居て驕夸ゆるよりよりよりよりよりよりよりよりよりより
そのゆへとて心憂いよりよりよりよりよりよりよりよりより
小腸よりよりよりよりよりよりよりよりよりよりよりより
○九四曰或躍在淵无咎何謂也子
曰上下无常非為邪也進退无恒非
離群也君子進德修業欲及時也故
无咎

九五曰飛龍天
在大人見利
何謂也子曰
利相應曰氣
相求曰水濕
火燥就雲龍
小後風虎
從聖人作而
物觀天平本
者上親地
乎本者下
親則各其
類也後也

右第二章

右第二章

潜龍用ゐることも勿へ
下也見龍田は在時
は舎まう也終日乾
の事と行なふ也
或いは躍て淵に在

乾元用九ハ天下ヲ治ス也ニ

右第三章

潜龍用ゐると勿
陽氣潜藏
見龍田は天下
文明終日乾六時
與偕小行るべし或

在天^{てん}上^{じやう}治^し也^や。亢^{かう}龍^{りゆう}有^あ悔^{かい}窮^{きゆう}之^の災^{さい}也^や。
龍^{りゆう}潜^{ひそ}て
 の分^{ぶん}用^{よう}の^のと^とる^るべ^べ下^かる^るべ^べり^りて^て知^しる^るの^の無^む四^しえ^え二^に
 九^く二^にい^いや^やと^と用^{よう}お^おる^るふ^ふ定^{じやう}ま^まし^しる^るが^が故^こふ^ふ時^{とき}と^と見^み合^あは^はて^て
 舍^{しや}る^る行^{かう}事^じと^と己^こま^まが^が業^{ごう}と^と修^{しゆ}行^{かう}して^{して}乾^{けん}々^々と^とじ^じる^る
 る^る自^じ試^しと^と時^{とき}節^{せつ}と^とあ^あつ^つと^と用^{よう}人^{にん}と^とい^いふ^ふく^く
 試^しみる^る上^{じやう}治^しと^と時^{とき}と^と得^{とく}て^て上^{じやう}に^に在^ある^る道^{だう}に^に施^しこ^こ
 治^しむ^むる^る有^あ悔^{かい}と^と究^{きゆう}ま^まり^り極^{ごく}て^て災^{さい}に^に有^あべ^べ
 乾^{けん}元^{げん}用^{よう}九^く天^{てん}下^か治^し也^や。
乾^{けん}は^は坤^{こん}に^に剛^{かう}を^を削^{けつ}ぎ^ぎて^て柔^{じゆう}道^{だう}と^と
 用^{よう}の^のと^とる^るべ^べ天^{てん}の^の
 治^し法^{ぽう}太^{たい}平^{へい}と^とい^いふ^ふ

右第三章

潛龍勿用。陽氣潛藏。見龍在田。天下
文明。終日乾乾。與時偕行。或躍在淵。

躍て淵に在乾道
乃ら章まる飛
龍天小在乃ら天
德乎位と亢龍悔
有時力偕と極
まる

乾元用九乃ハ天則ヲ見ス

右第四章

右第四章

乾道乃革飛龍在天乃位乎天德亢
龍有悔與時偕極
初九陽氣地中藏蓄以
用四のの時と得ざるなり
九二と變じて天火の離文
節と偕ふなりと九四の變じて
九三乾々で時
て雲うふれ氣色華なり九五の變じて大有となり天
の德ふなり天子德と位とと無て天下ふ德なり
外なる上九の時極まりて悔ひの外なり
○乾元用
九乃見天則
乾の用六爻は坤の柔を用ひ
これ天の則とさるなり或
人問て曰六爻は聖人の事右上の章は人事にて言へ
この章と天道とをさるなり義明行の辭なり單德
極則ハ一辭なり上章も
月例なり

乾元者始而亨者也。利貞者性情也。

乾始能美利。利天下之利。

大哉乾乎。剛健中正。純粹精也。

六爻發揮。旁通情也。

時六龍小乘。

乾元者始而亨者也。利貞者性情也。

乾始能美利。利天下之利。

大哉乾乎。剛健中正。純粹精也。

六爻發揮。旁通情也。

時六龍小乘。

時六龍小乘。

乘六龍以御天也。雲行雨施天下平。

也。

也。

右第五章

君子以成德為行。日可見之行也。潛

之為言也。隱而未見。行而未成。是以

君子弗用也。

君子學以聚之。問以辨之。寬以居

。

雲行雨施天下平。

右第五章

君子以成德為行。

日可見之行也。

潛之為言也。

隱而未見。

行而未成。

是以君子弗用也。

居仁以行之易曰見龍在田利見大

人君德也

九三重剛而不中

而惕雖危无咎矣

九四重剛而不中上不在天下不在田中不在人故或之或

之者疑之也故无咎

之仁以行之易曰見龍在田利見大

人君德也

九三重剛而不中

而惕雖危无咎矣

九四重剛而不中上不在天下不在田中不在人故或之或

之者疑之也故无咎

夫大人者與天地合

其德與日月合其明與四時合其序

與鬼神合其吉凶先天而天不違後

天而奉天時天且弗違而況於人乎

況於鬼神乎

神明的吉凶示之

神明的德合

神明的德合

神明的德合

神明的德合

神明的德合

神明的德合

神明的德合

直其正也方其
義也君子敬以
直内直外而
方之方以
直而德孤不
直方大習之
不習之不
行其所疑
其行也

其正也。方其義也。君子敬以直内，義
 以方外，敬義立而德不孤。直方大，不
 習，无不利。則不疑其所行也。
 直

也地道也妻道也
臣道也地道成
而无而代
終有也

天地變化
人隱易
囊外无
蓋一鐘
一言也

有美含之。以從王事。弗敢成也。地道
也。妻道也。臣道也。地道无成。而代有
終也。下る身今のりのうが美事功德の地やえ有
ても含うこよせ置て吾成ううとこせさるなり
王の事。お從ぐ。勤む。りのを。こ。然る。つ。天と先
て。地へ。後。よ。る。の。道。なり。夫。よ。つ。る。妻の。道。なり。主
ふ。つ。る。臣の。の。天。と。物。と。造。成。し。む。る。り。地
承。成。して。天。に。代。て。事。と。終。る。りの。なり。妻。と。臣。の。道。も
その。く。成。る。も。成。る。と。こ。と。无
して。王。の。つ。り。奉。り。て。さ。る。
○天地
變化。草木。蕃。天。地。明。賢。人。隱。易。曰。括
囊。无。咎。无。與。言。蓋。言。謹。也。乾の四爻とつふこ
天地陰陽の二

囊无咎无譽

乾の四交とふく
天地陰陽の二

氣^キ變^ヘ化^カして春^{ハル}と云^イふ^ハ木^キの^ノ重^{オモ}密^ミして閉^ト塞^セくと云^イふ^ハ陰^{イン}陽^{ヤウ}

君子黃中通理正位居體美在其
中而暢於四支發於事業美之至也

陰陽於疑之
必戰其類
其類也
故稱龍焉
猶未離其類也
故稱血焉
夫玄黃者天地之

の二氣とつるを君と臣との道の別と云ふなり
故に賢人のそれらくくを守りて身と湛じ
○君子黃中通理正位居體美在其
中而暢於四支發於事業美之至也
黃は土地の色なり土は黄とて中央より又臣下の正位は
坤の六二とて此の体は居るより水の上とてより理り舟
船通達を死て他へ言へて知るなり五もさうと坤は在
てと臣とつる君と臣とを以て周の類なり裏面と火天
大有とて衆衆の内を含蓄と四支は手足なり徳光射
体は暢りて所為事業は發し出此美の至也
○陰疑於陽必戰為其嫌於无陽也
故稱龍焉猶未離其類也故稱血焉
夫玄黃者天地之雜也天玄而地黄

雜也天玄而
地黄

右第七章

說卦傳

昔者聖人之作易也
作也神明於贊
而著也生也

右第七章

說卦傳

注の傳文なり

昔者聖人之作易也
幽贊於神明而
生著

聖人の易を作するに
幽は鬼神の助ける所は依りて
人神と神明と隔りて親づき
幽は鬼神の助ける所は依りて
幽は鬼神の助ける所は依りて

參天兩地而倚數

變於陰陽而觀而

道德於和順而

參天兩地而倚數

變於陰陽而觀而

道德於和順而

而理於義窮理盡性以至於命

右第一章

昔者聖人之作易也

右第一章

昔者聖人之作易也將以順性命之

而理於義窮理盡性以至於命

右第二章

天地位定山澤通氣雷風相薄水火不相射八卦相錯數往者順知來者逆是故易逆數也

右第二章

天地定位山澤通氣雷風相薄水火不相射八卦相錯數往者順知來者逆是故易逆數也

右第三章

右第三章

右第四章

帝出乎震齊于巽相見乎離致役乎坤說言乎兌戰于乾勞乎坎成言乎艮萬物出乎震震東方也齊于巽

右第四章

帝出乎震齊于巽相見乎離致役乎坤說言乎兌戰于乾勞乎坎成言乎艮萬物出乎震震東方也齊于巽

神也者万物之主也

金氣殺伐のときとて陰位され相薄く
 戦争の象なり坎の水にて正北の方なり水など苦勞
 する所のなり也又艮卦とて万物は歸する
 所のなり艮は東北の方と冬は万物は終つと
 の時と終るべきと始むるは自然の理なり
 冬は春の初めとなるなり

神也者。妙萬物而爲言者也。動萬物者。莫疾乎雷。撓萬物者。莫疾乎風。燥萬物者。莫熯乎火。說萬物者。莫說乎澤。潤萬物者。莫潤乎水。終萬物始萬物者。莫盛乎艮。故水火相逮。雷風不

相悖と不山気
と通下然と後
不能変化して既
一万物と成と也

相悖^シ山澤通氣^シ然後能變化既成萬物也。

徳妙なりののやして万物と造り成名け言ふたの如し
先物と重なりるものも雷なり疾くそなかり物と撓む
うりのへ風なり疾くそなかり物と燥爛と火に勝るも
のなかり物と見悦ぶところも沢より外はさそのと閑や
そそ水より外は物と始まる良候して春ふ盛よま
げりのづゝこ水火相速て用とすと吹離く雷風とのみ
悖れ震怒なりハスハ気と通を艮兌へ変化して万物
と造り成乾坤陰陽のものなり

右第六章

乾 健也 坤 順也
震 動也 巽 入也
坎 陷也 離 麗也
艮 止也 兌 說也

乾健也。坤順也。震動也。巽入也。坎陷也。離麗也。艮止也。兌說也。

右第七章

乾為馬。坤為牛。震為龍。巽為雞。坎為狗。艮為羊。離為雉。坤為牛。震為龍。巽為雞。坎為狗。艮為羊。離為雉。坤為牛。震為龍。巽為雞。坎為狗。艮為羊。離為雉。

泥のつゆえに
くは解る

右第七章

乾為馬。坤為牛。震為龍。巽為雞。坎為狗。艮為羊。離為雉。坤為牛。震為龍。巽為雞。坎為狗。艮為羊。離為雉。

と八卦の配當するところを讀みとくべし

右第八章

乾為首。坤為腹。震為足。巽為股。坎為耳。離為目。艮為手。兌為口。

象の卦のつぎの例

右第九章

乾天也。故稱乎父。坤地也。故稱乎母。震一索而得男。故謂之長男。巽一索而得女。故謂之長女。坎再索而得男。故謂之中男。離再索而得女。故謂之中女。艮三索而得男。故謂之少男。兌三索而得女。故謂之少女。

右第九章

乾天也。故稱乎父。坤地也。故稱乎母。震一索而得男。故謂之長男。巽一索而得女。故謂之長女。坎再索而得男。故謂之中男。離再索而得女。故謂之中女。艮三索而得男。故謂之少男。兌三索而得女。故謂之少女。

と少女と謂

右第十章

乾为天為圜為君為父為王為金為
大赤為良馬為老馬為瘠馬為馵馬為木果為

坤為地為母為布為釜為吝嗇為
均為子母牛為大輿為文為衆為柄
其於地也為黑

と少女と謂
乾为天為圜為君為父為王為金為
大赤為良馬為老馬為瘠馬為馵馬為木果為

右第十章

乾為天為圜為君為父為王為金為
寒為冰為大赤為良馬為老馬為瘠
馬為馵馬為木果
○坤為地為母為布為釜為吝嗇為
均為子母牛為大輿為文為衆為柄
其於地也為黑

震為雷為龍為玄黃為專為大塗為長子為決躁為蒼莨
其於馬也為馵足為作足為的顙其於稼也為反生其
究為健為蕃鮮

震為雷為龍為玄黃為專為大塗為長子為決躁為蒼莨
其於馬也為馵足為作足為的顙其於稼也為反生其
究為健為蕃鮮
○震為雷為龍為玄黃為專為大塗為長子為決躁為蒼莨
其於馬也為馵足為作足為的顙其於稼也為反生其
究為健為蕃鮮

離と火と為日と為
電と為中女と為
甲胃と為戈兵と
為其人と為大
腹と為乾卦と為
驚と為蟹為羸
と為蚌と為龜と
為其木と為也
科とて上稿と
為

良と山為徑路為
小石と為門闕と
為果蔬と為園
寺為指為狗為
鼠為默喙之属

心こころの首くびとほろとほの水の下へ行くと薄き端と
 と又車つと易やす故ゆゑは青災多しと通ぬけと
 と腹と盜人の意あり木と内堅く
 皮アと故ゆゑは心多く堅の意あり
 火ひ為な日ひ為な電でん為な中女ちゅうにょ為な甲胃こうゐ為な戈兵かへい
 其その於に人也ひと為な大腹たいぶつ為な乾卦けんが為な蟹かに
 為な羸れい為な蚌はう為な龜き其その於に木也き為な科か上稿じやうかう
 中ちゆう年ねんの女にょ人ひと大なる腹と日ひの胆外たんのがいの意あり
 が故ゆゑは乾の卦の意あり蟹かに鱸ろ羸れい蚌はう貝かい龜き
 内うちは科か堅剛けんかうの意と離りの象あり稿木かうき外がいと
 内うちは科かり取りは取とり他たの續法じゆくぽうの譯わけるこが
 例れいなり
 艮がみ為な山さん為な徑路けいりょ為な小石せうせき
 為な門闕もんけつ為な果くわ為な閤がく寺てい為な指さし為な狗こ為な

○艮為山為徑路為小石

此乃其木之節多
 堅ふく節多
 一と為す

荒^どと沃^うと為^な少女^{しやうにう}
 と為^な巫^ふと為^な口舌^{くしやう}
 と為^な毀折^{くしやう}と為^な
 附^つ決^{けつ}と為^な其地^{そのち}
 小^こ方^{かた}也^や剛^{かう}鹵^ろと
 為^な妾^{めかけ}と為^な羊^{やう}為^な

右第十章

序卦傳

天地有て然し
後萬物生む
天地之間は盈る
者唯萬物故

右第十一章

序卦傳

この篇ハ卦と云ふに設くるの
次序あり

有^ニ天^テ地^ニ然^ル後^ニ萬^ニ物^ニ生^ス焉^〇盈^ニ天^ニ地^ニ之^ノ間^ニ

否故受之以同人與又同者物必歸
焉故受之以大有有大有大者不可
以盈故受之以謙有大而能謙必豫
故受之以豫

之以豫。豫必有隨。故受之以隨。以喜隨人者。必有事故。受之以蠱。蠱者事也。有事而後可大。故受之以臨。臨者大也。物大然後可觀。故受之以觀。可觀而後有所合。故受之以噬嗑。噬嗑者合也。物不可以苟合而已。故受之以賁。

以苟くも合し而
 不可不故ふ之
 受ふ責を以て
 責者飾也飾を致
 然して後事
 則て盡矣故
 之受ふ剝剝
 物に剝剝者剝也
 終可不上窮
 つて下反故
 受ふ復を以て
 復を以て則
 安する不妄
 之受ふ無妄
 之受ふ無妄
 後畜可故ふ之

とらまはすの更ふ隨ふ故に隨て以て次より象
 として人ふちこふりの必を何更ぞうくくむ
 うる盡ふ事なり小更も常ふりてらうふと
 るる山より易い山大より易い臨や
 物大より人の觀物とてふて觀りのあれど
 人奇合し物と噬嗑の相合が
 物更變易きと遇て有るれと苟且も合
 さんととれべ成へつら成へ責となり故に責と次
 責者飾也致飾然後亨則盡矣
 故受之以剝剝者剝也物不可以終
 剝窮上反下故受之以復復則不妄
 其故受之以无妄有無妄然後可畜
 故受之以大畜物畜然後可養故受

受ふ大畜
 物畜然
 養ふ可
 受ふ順
 順者養也養
 則ち動可
 之受ふ大
 可故ふ之
 受ふ以て
 坎者陷
 也陷る必
 所有故ふ
 る離麗也
 離者麗也

之以順順者養也。不養則不可動。故
 受之以大過。物不可以終過。故受之
 以坎。坎者陷也。陷必有所麗。故受之
 以離。離者麗也。
 責を致むる物
 剝剝者剝也
 復を以て則
 安する不妄
 之受ふ無妄
 之受ふ無妄
 後畜可故ふ之

石上篇終

石上篇終

天地有_レ然_レ後_レ万物有_レ然_レ後_レ男女有_レ然_レ後_レ夫婦有_レ然_レ父子有_レ然_レ後_レ君臣有_レ然_レ後_レ上下有_レ然_レ後_レ義錯_レ所有_レ夫婦之道_レ以_レ又_レ不可_レ不_レ也_レ故_レ又_レ受_レ又_レ恒_レ者_レ又_レ也_レ物_レ以_レ又_レ

其所以居可
不故之受
遇者退也物以て
遇者終可不故ふ
之受ふ大壯と人
ては物以て壯と終
可不故ふ之受ふ
晋と以てを

晋者進也進むが必
ど傷所有故ふ之
ふ受ふ明夷と以て

夷者傷也外ふ於
傷者必ど其家
ふ反故ふ之受ふ
家人と以てを

聖典餘帀

家道窮必乘故受之
 受者乘也乘必有難故受之以蹇
 蹇者難也物以難終不可不故受之以解
 解者緩也緩必有所失故受之以損
 損而不已必益故受之以益
 益而不已必決故受之以夬
 夬者決也決必有所遇故受之以姤
 姤者遇也物相遇而後聚故受之以萃
 萃者聚也聚而上者謂之升故受之以升
 升而不已必困故受之以困
 困而不已必反下故受之以井
 井道不可不革故受之以革
 革而後動也物不可以終動止之故受之以艮
 艮者止也止而後定故受之以漸
 漸者進也進而不窮故受之以歸
 歸者女之從夫也

○家道窮必乘故受之以
 以睽 睽者乖也乖必有難故受之以蹇
 者難也物不可以終難故受之以解
 解者緩也緩必有所失故受之以損
 損而不已必益故受之以益
 益而不已必決故受之以夬
 夬者決也決必有所遇故受之以姤
 姤者遇也物相遇而後聚故受之以萃
 萃者聚也聚而上者謂之升故受之以升
 升而不已必困故受之以困
 困而不已必反下故受之以井
 井道不可不革故受之以革
 革而後動也物不可以終動止之故受之以艮
 艮者止也止而後定故受之以漸
 漸者進也進而不窮故受之以歸
 歸者女之從夫也

受者乘也乘必有難故受之以蹇
 蹇者難也物以難終不可不故受之以解
 解者緩也緩必有所失故受之以損
 損而不已必益故受之以益
 益而不已必決故受之以夬
 夬者決也決必有所遇故受之以姤
 姤者遇也物相遇而後聚故受之以萃
 萃者聚也聚而上者謂之升故受之以升
 升而不已必困故受之以困
 困而不已必反下故受之以井
 井道不可不革故受之以革
 革而後動也物不可以終動止之故受之以艮
 艮者止也止而後定故受之以漸
 漸者進也進而不窮故受之以歸
 歸者女之從夫也

決必有所遇故受之以姤
 姤者遇也物相遇而後聚故受之以萃
 萃者聚也聚而上者謂之升故受之以升
 升而不已必困故受之以困
 困而不已必反下故受之以井
 井道不可不革故受之以革
 革而後動也物不可以終動止之故受之以艮
 艮者止也止而後定故受之以漸
 漸者進也進而不窮故受之以歸
 歸者女之從夫也

者説也... 故受之以既濟物不可窮也故受之以未濟終焉

濟故受之以既濟物不可窮也故受之以未濟終焉... 乾剛坤柔比樂師憂臨觀之義或與

受小未濟終焉

右下篇終

雜卦傳

乾剛坤柔比樂師憂臨觀之義或與

右下篇終

雜卦傳

乾剛坤柔比樂師憂臨觀之義或與

或求

乾の徳剛なり坤の徳柔なり然る小成の剛... 易道の変化ハ極

而不失其居。蒙雜而著。震起也。艮止也。損益盛衰之始也。大畜時也。无妄災也。萃聚而外不來也。謙輕而豫忘也。噬嗑食也。賁无色也。兌見而英伏也。隨无故也。蠱則飾也。剝爛也。復反也。晉晝也。明夷誅也。井通而困相遇也。咸速也。恒久也。

漁いハハ離り也ハ節ふ々ハ土ハ

大畜はふるの時と得るを无妄は天道自然なり
 復と尽とて自然と待とるは災禍と云ふことあり
 萃きまゝに來歸するがゆえに升るといふ往とてむが故なり
 て來るりのなり無身と行くと善といへども無の弊に
 輕しめらるるなり象は行はるるなりとよひ直さまふと
 復さるるなりふるは怠慢なりへ噬嗑はかくさるるなり
 後食通なるを責は本は色なりとのなりは飭とつけて貞
 なり兎は陰の外に見るなり三爻といふ巽は陰の内は伏
 きるなり初爻といふ隨は故無し一時は隨後て便宜と制
 を盡は事なり事賤まで後進とて飭備なり剣は上
 爻爛破までとるるなり上爻といふ復は下へ復なり
 初爻といふ晋は離明坤地の上に出るなり日直といふ明は夷
 とて賢人と殊傷なり井は通なりとて徳の及ぶこと
 あり早速なり困は剛柔相遇て剛の險中を掎抜くこと
 あり一變は恒なり
 ○渙離也節止也解

也解後也寒也
 難也睽外也家
 人内也否泰
 其類也反也
 則止也退也
 同人親也革
 去也鼎也新
 也取也信也
 中孚也過也
 故多親寡旅
 也離上而坎
 下也

緩也蹇難也睽外也家人内也否泰
 反其類也大壯則止遯則退也大有
 衆也同人親也革去故也鼎取新也
 小過過也中孚信也豐多故親寡旅
 也離上而坎下也

解者外之也蹇者難也睽者睽之也家人内也否泰
 其類也反也則止也退也同人親也革去故也鼎取新也
 中孚也過也故多親寡旅也離上而坎下也

小畜寡也履
 處不也需進
 不也訟親
 遇也柔剛遇
 漸女歸男
 待行也願
 正養正也既
 濟定也歸妹
 女之終也未
 濟也剛柔決
 也君子道長
 小人道憂也

故多旅の中ハ親レリの寡ニ離ハリ人の
 坎の水ハ下ラリるもの寡キりのハ小畜
 止處不るちり行ハス
 小畜寡

也履不處也需不進也訟不親也大
 過顛也姤遇也柔遇剛也漸女歸待
 男行也願養正也既濟定也歸妹女
 之終也未濟男之窮也夬決也剛決
 柔也君子道長小人道憂也

解者外之也蹇者難也睽者睽之也家人内也否泰
 其類也反也則止也退也同人親也革去故也鼎取新也
 中孚也過也故多親寡旅也離上而坎下也

歸きする之順しゆん正ただしめて養やしなふなりとい賢人けんじんと云いふなり
 既濟けいけいと水火すゐくわ和合わがくして剛柔かうじゆうの位ゐささまるなり未濟みけい
 の二四六の三爻さんぎやうなる陽画やうがなる四五の位ゐささまるなり
 困窮こんきゆうなりとい夫その五爻ごぎやうなる陽爻やうぎやうありて上の一陰いちいんと決けつ
 斷はなち去さるなり此これ依よて君子くんしの道みち益えきく長ながくなり小
 人の道みちの日々ひひ衰おとろへて心こころも又憂うれふなり

周易餘師卷之七終 大尾

餘師數卷既行
于世今年易又
上梓或云國字
行而書生怠於

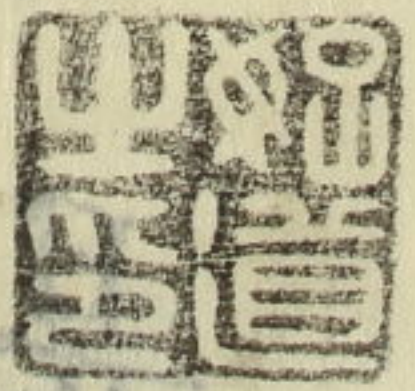
爲學或云益於
職役鞅掌者及
幼童嗚呼天下
之大何容鎖仁

之言乎要皆是
聖代治隆之
常態耳好道書
寫之役畢以授

於剗剗併跋云

文政己卯正月

橋本好道謹書



文政二年己卯十一月癸兌

京都 勝村治右衛門

江戸 須原茂兵衛

全伊八

書林

澁川與左衛門

淺野彌兵衛

大阪 柳原木兵衛

岡田儀助

森本太助

